

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 8月 2日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4672100189号		
法人名	有限会社 一幸		
事業所名	グループホーム みどりの郷		
所在地	南九州市 頴娃町 上別府 4627番地 (電話) 0993-28-2250		
評価機関名	NPO法人 自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成21年7月28日	評価確定日	平成21年8月15日

【情報提供票より】 (21年 7月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 7月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤13人 非常勤2人 常勤換算14.0	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨平屋 造り		
	1 階建て	～	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	500 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		800 円	

(4) 利用者の概要 (7月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名	
要介護1	4 名	要介護2	5 名			
要介護3	4 名	要介護4	2 名			
要介護5	2 名	要支援2	1 名			
年齢	平均	86 歳	最低	78 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	みどりクリニック	ひまわり歯科クリニック
---------	----------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然豊かな高台の集落にあるホームである。家庭の延長という視点を重視した居住空間作りは、開放的で明るく、プライバシーが保たれる居室となっている。運営者と管理者を中心に職員は入居者ののびのびとした生活習慣を維持できるように、きめ細かな支援を心がけている。夕食後の入浴支援や積極的な外出支援や温かな見守り支援などにより、入居者との信頼関係を築き上げている。入居者の笑顔や家族等の喜びは職員の喜びや励みになり、満足度に繋がっている。恵まれた環境の中で地域住民・学生の体験実習・保育園児との交流やボランティアの受入れなどで地域に支えられている。

【重点項目への取組状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価での改善課題はない。ホーム独自で改善課題を設けて運営推進会議や職員と話し合いながら改善に取り組み、サービスの向上に活かしている。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員で自己評価に取り組み、利用者一人ひとりの満足度についてケアのあり方を研修している。評価を活かし具体的な改善に取り組んでいる。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議は定期的開催している。参加者に地域住民の方が多く、ホームの安心・安全確保に活かされている。スプリンクラーを設置する事や取り組み状況・改善結果報告等なされてサービスの向上に活かしている。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時や行事参加・家庭訪問時に意見を出しやすい雰囲気づくりに心がけている。また、見直し時にアンケートをするなど工夫しており、エアコンのタイマー設置や自宅に気軽に電話できる援助などの要望に対応し、家族等に満足が得られている。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入して、夏祭り・敬老会・防災訓練などの地域行事に参加している。専門学校生の体験実習やボランティア・保育園児との交流・散歩時に地域住民との交流が行われている。また、小学生の体験学習を受け入れる準備もされている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中でその人らしく暮らし続ける事を支えていくという、新しいグループホームの位置づけに即した理念を作成している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関やホールの目に付く場所に掲示し、認識できるようにしている。申し送り時やミーティング時に確認し合い共有に努め、日々のケアに活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入して、夏祭りや敬老会などの地域行事に参加している。専門学校生の体験実習やボランティア・保育園児との交流や散歩時での地域住民との交流がおこなわれている。また、小学生の体験学習を受け入れる準備もされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で自己評価に取り組み、利用者一人ひとりの満足度などについてケアのあり方を研修している。評価を活かし具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は定期的に行われている。参加者に地域住民の方が多く、ホームの安心・安全の確保に活かしている。スプリンクラーを設置することや評価の改善結果報告等をしてサービスの向上に活かしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者に運営やサービスについて相談しながら関係づくりを積極的に行っている。また、介護支援専門員研修にも参加している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に発行しているホーム便りや月次報告書を送付している。家族の来訪時に、心身の状況や暮らしぶり・職員異動・行事予定等、家族の知りたい情報をなるべく細やかに伝えるようにしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や行事参加時・家庭訪問時に、意見の出しやすい雰囲気づくりに心がけている。また、見直し時にアンケートをするなど工夫している。エアコンのタイマー設置や自宅に気軽に電話できる支援など、要望に対応し家族等に満足が得られている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者・家族等との馴染みの関係を重要視したケアを心がけている。やむを得ない異動の場合には、入居者に不安がないように工夫し取り組んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には、段階に応じて交替で参加して、研修報告をしている。内部研修は担当者を決めており、ミーティング時に課題を設けて勉強会を実施して、職員の技術や知識の向上に活かしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区のグループホーム協議会に加入しており、グループワークの研修会に参加したり、他ホームと見学交流や情報交換を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望の折には本人と家族に面談し、生活歴や思い・不安を十分に聞いている。また、馴染めるように見学をしてもらい、信頼関係を築きながら、不安なく入居できるように取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	季節行事の習わし・料理・植え付け時や収穫のやり方・方言の意味などを、教えてもらっている。入居者のいきいきとした表情に職員は喜びを感じたり、ねぎらいの言葉に励まされながら日々を共にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の言動・表情・サインを観察しながら把握に努め、経過記録や業務日誌で職員は共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向・主治医の意見・職員の気づきや意見を反映した、本人本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しと、個別経過記録にケアの実践・結果・気づきを記録して情報を共有し、入居者の状態変化や退院時はその都度モニタリングを行い、評価結果を見直しに活かしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族等の状況や要望に応じて、病院受診や墓参り・自宅訪問・お悔やみ・お見舞い・外泊など、柔軟に支援している。医療連携体制もとっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族等が希望しているかかりつけ医の受診が継続できるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制をとっており、重度化や終末期に対して家族・医師・看護師で話し合いをもち、全職員も共有している。ホームが支援できる方向性を統一した指針が定められている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員会議で話し合いを行い、利用者のプライバシーを損ねないように、声かけや対応に留意している。職員採用時の個人情報保護の誓約書も取っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムと身体状況を大切にしながら、業務優先でなく本人の希望や状況に応じて柔軟に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえやテーブル拭き・箸置き・野菜の収穫・下膳など、できる事を一緒に行い、サポートしながら食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夕食後に入浴支援ができるように職員のローテーションを組んでいる。また、シャワー浴や清拭もしており、年に数回は地域の温泉にも出かけている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	居室掃除や洗濯物たたみ・農作業などの日常的な作業や昔の歌・軍歌・唱歌・塗り絵・リズム体操など、一人ひとりの得意な事、好きな事で力を発揮できるように支援している。また、自宅訪問・温泉入浴に出かけるなど気晴らしの支援もしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物・中庭での外気浴のほか、グランドゴルフ競技の見学等、外出の機会づくりを工夫し、閉じこもらない支援に努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけないケアに取り組んでおり、プライバシーに配慮しながら見守りに努めている。入居者は開放的で自由な生活をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホーム内で年4回避難訓練を消防署・地域住民の協力のもとに行っている。また、地域の防災訓練にも参加している。災害時の備蓄もしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を記録して一人ひとりの状態に応じた摂取量の確保ができています。身体状況に合わせて食事形態を変えています。栄養バランスは栄養士のアドバイスをもらっています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は清潔で明るくよどみや臭いがなく、温度や換気に配慮が行き届いている。中庭のベンチやホールソファのソファ・畳の間などくつろげるスペースが確保されていて、入居者はそれぞれゆったりと過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	位牌・家族の写真・ぬいぐるみ・寝具類等、本人の物品が持ち込まれている。また、居室入口に分かりやすい花や鳥の名称と表札が掲げられて、個性のある居室づくりになっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。